

みんなのた場

サ一フル
仲問
81

須江獅子舞保存会

地域の一体感創出 子どもたちにも継承

須江獅子舞は昭和3年、須江小学校の旧校舎を建設した岩手県気仙地方の大手たちによって伝わりました。約90年の歴史を持ち、現在も住民有志25人で構成する保存会が伝統を受け継いでいます。

五穀豊穣、家内安全等を願う厄払いを行う須江獅子舞は、リズムミカルかつ激しく踊るのが特徴です。春の例祭では地区の家々を巡回するほか、地元の愛宕神社で舞を奉納します。

震災の影響で一時活動を休止していましたが、24年に復活し、同地区の仮設糠塚団地で1年ぶりに舞を披露し、迫力の演舞で地域に元氣と感動を与えました。

会長の近藤孝さん(65)

は「郷土芸能は地域の結束力を強めてくれる大切なものです。震災後に仮設住宅で舞を披露したとき、住民の皆さんに笑顔が広がったのを見て、文化が持つ力、自信と誇り、そして大きな喜びを感じました」と振り返ります。



▲須江獅子舞保存会の皆さん

また保存会では地域の子どもたちに古里の伝統を肌で感じてもらうと、平成10年から須江小学校の児童を対象に獅子舞の指導も行っています。子どもたちの舞は学芸会や地元の敬老会等で披露され、地域の一体感を生む一助となっています。

保存会では現在、70代の会員が主力で、後継者不足が課題の一つになっています。近藤会長は「伝統は一度途切れてしまえば復活させることは困難です。地域のつながりを維持するためにも、これまで以上に保存会を盛り上げ、次代を担う須江地区の若者たちに継承していきたいです」と語っていました。

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとおきの話をお寄せください。

テーマ 「ありがとう」

日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。

字数 400字以内

投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールで秘書広報課までお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。

注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたもの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。

☎ 秘書広報課(内線4024) ☎ 986-8501(住所不要)

✉ ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp



石巻市子どもセンター「らいつ」を拠点に活動する小中高生が製作した震災ひろめ伝承モニュメントのお披露目式が3月11日(水)に行われました。震災を経て、なお愛する石巻の海への思い等を込めてモニュメントを「♡パステル♡~Our WAVES from 3・11~」と命名しました。

キラッとパチリ

震災伝える モニュメント

「らいつ」の
子どもたちが製作

文化財
たんぽう
82

石仏信仰

文化財保護委員

千葉 松一郎

震災以来、気になっていた雄勝町明神地区の塩釜神社境内にある子安観音に足を運んだ。車から降りると、石造りの鳥居が震災で無惨にも倒壊したままになっており、さらに井内石造りの石段を登ると津波で流失した部分が、自然石で地域の人達の手で一時的に修復してあったがここでも津波の驚異を感じた。

一段ずつ数えて百二十段、ようやく境内に登りつめ、神社の右手にある雄勝特有のスレート葺きの鞘堂の中に観音さんが見え、何となくホッとした。

この子安観音は、左手に蓮華を持ち、右手で胸に赤子を抱えている。造立した年代等が刻まれてあるかと、台座をシダの葉を丸めて擦ってみると、

天明三年癸卯年
二月十八日
当演女講中
飯野川 おさん
針岡村 おとら
小嶋女講中
と刻まれている。

天明三年は初春から凶作凶漁であり、特に宝暦、天明、天保年間は藩政時代の三大凶歳と呼ばれ、交通不便なそして耕地の少ない雄勝の村人



にとつて当時の凶作は深刻な影響を与え、田畑のない漁村は苦しみ「生きて行く」だけでやっとなつたと言う。

このような飢饉の年にあえば、乳幼児の死亡率は極めて高く、生児が生き残れるかどうかは、成り行きに任せるほかなかった。さらに「間引き」等という受難も待ち受けており天災地変があれば、生命の危機に弄ばれるのは常に子ども達であった。

石仏くらい素朴で真剣な庶民信仰はない……

この世の祈りの姿と、あの世の幸せを願う形として、この子安観音も当時、明神小嶋濱の女講中が中心となつて造立したものであり、それを一身に受け止めて今まで境内に立ちつくして来たのである。

まちの話題



石巻地区

3月7日(土)
中央二丁目(橋通り)

震災の教訓伝え 復興情報を発信

震災の風化防止と、復興事業の進行状況や将来像を発信する「石巻市復興まちづくり情報交流館中央館」がオープンしました。震災前の暮らしや震災から現在までの足跡、これからのまちの姿をテーマにした写真等の展示スペースと映像コーナー、市民団体等がまちづくりについて考えるワークショップを行うこともできる交流スペースがあります。

石巻地区

入館250万人達成

3月8日(日)
石ノ森萬画館



石ノ森萬画館の入館者数が250万人を達成しました。記念すべき250万人目は幼稚園の卒園記念として家族で訪れた岩手県宮古市の平野應丞君(6歳)です。仮面ライダーのファンという平野君は思いがけない幸運に驚くとともに大喜びでした。記念セレモニーでは、くす玉を割って祝福したほか、いしぴょんずから来館証明書や地場産品等の詰め合わせが手渡されました。